

第八回 JCOMM プログラム

(平成 25 年 6 月現在)

7 月 12 日 (金)

10:00-12:00 開催地企画

13:00-15:10 OP セッション

13:00 歓迎アトラクション
13:10 挨拶
13:20 特別セッション
14:50 JCOMM 賞授賞式

15:10-16:15 ポスターセッション A

16:15-17:15 口頭発表 1 「震災と MM」

本セッションの主旨：2011 年 3 月 11 日の東日本大震災がもたらした傷はいまだ癒えることなく、被災地やその周辺の人々の生活を困難にしています。そして我が国は南海トラフ巨大地震、首都直下型地震という更なる脅威に直面しています。そうした危機に直面したときこそ、より望ましい態度・行動を人々が自ら選択できる社会の実現に向けて、MM が果たす役割は大きいものと考えます。
このセッションでは、東日本大震災後の人々のライフスタイルの変化や身近な交通環境に起きた変化を振り返りながら、今後の大規模災害に備えるにあたっての MM の役割等についてご報告いただけますと幸いです。

- O-01 森英高 筑波大学大学院社会システム工学専攻
いわき市に見る震災前後の交通手段と生活の変化一何を取り戻せばよいのかを考えるー
- O-02 佐藤良太 筑波大学大学院 システム情報工学研究科リスク工学専攻
東日本大震災における路線バス復旧に関する物語研究
- O-03 永井孝弥 東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部復興企画部
津波で被災した気仙沼線・大船渡線の BRT による仮復旧の取組み

17:15-18:15 口頭発表 2 「MM の戦略的な展開」

本セッションの主旨：MM を成功に導くためには、公共交通に関わる多様な問題をできる限り明確に抽出し、その問題の解消に向けた適切なコミュニケーション対象者を設定し、さらに、その対象者にとって最も効果的なツールやスキームを用いて態度行動変容を促す必要があります。
このセッションでは、如何にして複雑な交通問題における課題を抽出し、適切なターゲットに対して有効なコミュニケーション施策を選択し、戦略的な展開を図ったか、についてご報告いただけますと幸いです。

- O-04 坂野浩之 仙台市 都市整備局 総合交通政策部 公共交通推進課
せんだいスマート
- O-05 中沢俊之 江ノ島電鉄株式会社観光企画部
MM 技術を応用した混雑緩和の取組み
- O-06 関下和裕 (一社) 北海道開発技術センター 東北事務所
特定路線の戦略的利用促進プロジェクト：「愛称」、「専用乗車券」、「MM ツール」

7月13日(土)

9:00-10:00 口頭発表3 「観光・余暇・買い物活動とMM」

本セッションの主旨：MMが交通施策として全国各地で展開されるようになり、その効用は交通課題の解消のみならず、交通行動の変容を通じて人々に「地域への愛着」や「幸福感」をももたらすことが徐々に明らかにされつつあります。そして、そうした意識変容が人々の観光行動や買い物活動にもたらす影響についても検証されつつあります。

このセッションでは、新たなMMの可能性を探る上で重要な知見となる「観光」や「まちづくり」、「買い物」といった新しいキーワードで展開されたMMについてご報告いただけますと幸いです。

O-07 古川のり子 (株)バイタルリード

神門通りにおける道路整備期間中のまち歩き観光促進に向けた取り組み

O-08 菊池輝 東北工業大学大学院

百貨店来店者の利用駐車場分散のためのコミュニケーションツール「ParkingNAVI」

O-09 吉村仁志 京都市都市計画局歩くまち京都推進室

「スローライフ京都」大作戦(プロジェクト) ～クルマで恋をとめないで～

(休憩：10分)

10:10-11:10 口頭発表4 「多様な主体によるMM」

本セッションの主旨：MMの重要な要素の1つとして、多様な主体の関わりが挙げられます。一部の人々による限られた取組では社会全体の課題の解消は困難ですが、多様な主体が参画することで、一部の人々ではなし得なかった新たな交通システムの導入といった、より抜本的な施策へと発展しうることがあります。

このセッションでは、「学校組織」や「民間鉄道会社」等、多様なMMの主体が中心となって展開したMM実施のコンセプトやスキーム、今後の発展可能性等についてご報告いただけますと幸いです。

O-10 牧野宜英 札幌市立手稲宮丘小学校

札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたMM教育の実践的取り組み

O-11 小畑淳一 大分市都市計画部都市交通対策課

交通不便地域における「利用者意思」を反映させた交通計画のありかたの模索

一大分市における公共交通活用策に関する産学官共同研究(フェーズ4)ー

O-12 鈴木弘之 国際興業グループ株式会社 運輸事業部 運輸企画課

自治体・住民・事業者が一体となってMMに取り組むきっかけとなった飯能地区の路線バス存廃問題

11:10-12:10 口頭発表5 「MMと情報化」

本セッションの主旨：MMの進展に伴い、従来の紙媒体によるコミュニケーション・ツール以外にも様々なコミュニケーション技術が試行されつつあります。特に、近年急速に発展しつつある情報通信技術は、MMをより身近に、より効果的に展開できるツールとして期待が高まりつつあります。

このセッションでは、新たな情報化技術を活用した先進的なMMのお取り組みについて、実践における工夫点や今後の発展可能性等についてご報告いただけますと幸いです。

O-13 岩渕伸 仙台市交通政策課

世界初ICT技術を用いたデータバイク「仙台の挑戦」

O-14 渡部康祐 技術第一部社会システムグループ/日本工営株式会社福岡支店

スマートフォンを活用したITSサービス「すいすい太宰府ナビ」による交通円滑化に向けた検討(報告)

O-15 谷口守 筑波大学大学院 社会工学域

スマホ時代のMMを考える

13:30-14:40 ポスターセッションB

14:40-15:40 口頭発表6 「MMの継続」

本セッションの主旨：MMの継続性の重要性はしばしば指摘されますが、実施主体である行政担当者の異動等によりその実現は容易ではありません。MMを持続的に展開するためには、MM推進体制の整備と実効性が担保された計画の策定が不可欠です。
このセッションでは、MMの継続に向けた課題を克服し、持続的に展開しているお取り組みについて、実務上のポイントや今後の展望についてご報告いただけますと幸いです。

O-16 神田佑亮 京都大学大学院 工学研究科

モビリティ・マネジメントの成功と継続のためには？～先進都市から解釈する、マネジメントのポイント～

O-17 荒平信行 福山市建設局都市部都市交通課

福山MM“10年”のあゆみ

O-18 吉田隆亮 一般社団法人北海道開発技術センター

当別町における継続的なモビリティ・マネジメントの取り組み

7月14日(日)

: 現地視察会

以上

第八回 JCOMM 仙台大会 : ポスター発表プログラム

ポスター発表 A (7 月 12 日 (金) 15:10~16:15)

| 発表者 | 所属 | 発表タイトル | ツール |
|-------|----------------------------------|--|-----|
| 佐々木邦明 | 山梨大学 | 交通不便地域での互助的交通手段としての乗りあい促進の試みとその課題 | ○ |
| 青野貞康 | 東京大学大学院 | スマートフォンプローブパーソン調査とトラベルフィードバックプログラムによる高齢運転者の超小型電気自動車に対する認知と受容性の向上 | ○ |
| 東福光晴 | 富山市都市整備部交通政策課 | 富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業について～“くしとだんごのまちづくり”を核とした富山版 MM 教育学習プログラム～ | ○ |
| 大門健一 | (株) 新日本コンサルタント | とやまレールライフ・プロジェクト：情報誌、TFP、ホームページ等複合的な MM の取り組みの展開 | |
| 伊藤昌毅 | 鳥取大学 大学院工学研究科 | 経路案内サービスへのアクセスから探る公共交通への需要の実態 | ○ |
| 堀内重人 | 運輸評論家(大津市交通バリアフリー推進員) | 三江線活性化に向けたバスを用いた社会実験 | ○ |
| 太田恵梨子 | さいたま市環境局環境共生部環境対策課 | 転入者 MM 導入によるさいたま市の CO2 削減ポテンシャルについて | ○ |
| 錦戸綾子 | 首都高速道路株式会社計画・環境部 | 首都高スマナビサイトを活用した首都高速道路の利活用に関する取組と効果 | |
| 大和田拓 | 豊橋市役所 都市計画部都市交通課 交通企画グループ | 民間事業所と行政が連携した通勤環境改善の取組み | ○ |
| 守川洋 | 山口市役所地域振興部交通政策課 | 事業者と行政の協働によるバス利便性向上と利用促進 | ○ |
| 小美野智紀 | らくもび | 子ども及び親子連れをターゲットとした「バスの乗り方教室」の実施・「バスご利用ガイド」の制作 | ○ |
| 五味勇樹 | 山梨県 県土整備部 都市計画課 | クルマ中心の山梨県での“エコ通勤”への取り組みについて | |
| 馬籠智子 | 京都府建設交通部交通政策課 | 交通環境学習の自立的・継続的な展開方策に関する考察～京都府久御山町の取り組みを例として～ | ○ |
| 飯野公央 | 松江市公共交通利用促進市民会議・島根大学法文学部 | 松江市における公共交通利用促進市民会議を中心とした職場 MM の継続的实施と新たな展開～「まつエコ宣言」の効果と幼稚園 MM の可能性～ | |
| 萩原剛 | 一般財団法人計量計画研究所 社会基盤計画研究室 | 物流事業者への情報提供による急減速挙動抑止に向けた取り組み | ○ |
| 山本克己 | 筑波大学システム情報工学研究科 リスク工学専攻 | バスの安全は当たり前？魅力的？ ～狩野の品質モデルによる路線バスサービスの特性分類～ | |
| 岡本英晃 | 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 | 交通環境学習のさらなる普及に向けた考察 ～学習指導要領等との関連性の整理 | ○ |
| 山崎基浩 | (公財) 豊田都市交通研究所 | 自転車通勤促進のための安全意識調査と啓発冊子の作成 | ○ |
| 村尾俊道 | NPO 法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾/京都府交通政策課 | "総合交通政策推進のための実務者教育の実践 - 熟成する再生塾・世界に広がる再生塾 -" | |

| | | | |
|-------|---------------|--|---|
| 鈴木春菜 | 山口大学大学院 | 観光 MM の心理的効果 | |
| 岩織香奈子 | 三沢市政策財政部政策調整課 | 三沢市コミュニティバス“みーばす”の運行開始とあわせた公共交通利用促進の取組 | ○ |

(○ ツール展示予定のご発表)

ポスター発表 B (7月13日(土) 13:30~14:40)

| 発表者 | 所属 | 発表タイトル | ツール |
|-------|---|--|-----|
| 本多建 | 東京大学新領域創成科学研究科 | オンデマンド交通システムの展開状況と地域活動の効果 | |
| 兒玉崇 | 保全交通部/阪神高速道路株式会社 | 「阪高 SAFETY ナビ」による交通安全支援～プログラムの検証評価～ | ○ |
| 高橋徹 | (株) ATR Creative , NPO 法人 Linked Open Data Initiative | 「ちずぶらりプラットフォーム」を用いたバスマップアプリの試作 | ○ |
| 中前千佳 | 一般社団法人北海道開発技術センター 地域政策研究所 | 考えるあしプロジェクト『エコスタイル通勤1ヶ月チャレンジ』～札幌における通勤 MM の取組～ | ○ |
| 大井元揮 | 一般社団法人北海道開発技術センター | こども環境情報誌『エコチル』による全市的な児童・保護者を対象とした MM の展開 | ○ |
| 中野達也 | 国土技術政策総合研究所 道路研究室 | 自転車ネットワーク計画作成に向けた効率的な自転車通行実態調査手法の提案 | ○ |
| 鈴木春菜 | 山口大学大学院 | | |
| 永見正行 | TMO (Traffic Management Orchestra) /中央エンジニアリング | 交通ゲームの開発と実践概要について～ | ○ |
| 岡将男 | NPO 法人 公共の交通ラクダ (RACDA) | 瀬戸内国際芸術祭 2013 開催に合わせての、『備讃瀬戸アクセスマップ・アクセス時刻表』の作製と配布 | ○ |
| 金載烈 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 柏市におけるマルチ交通シェアリング社会実験の取り組みとモビリティ・マネジメントの評価 | |
| 藤井亮平 | 徳島大学大学院先端技術科学教育部 知的力学システム工学専攻 建設創造システム工学コース | 健康情報提供による自動車利用抑制効果 | |
| 川原志保 | 名古屋市役所 住宅都市局都市計画部交通企画課 | 「エコ交通マップ」の作成について | ○ |
| 市健次 | 松山市都市整備部総合交通課長 | 松山エコ交通チャレンジ | |
| 馬籠智子 | 京都府建設交通部交通政策課 | 京都府における持続的な交通環境学習プログラムの開発 | ○ |
| 保坂富士雄 | 秦野市都市部公共交通推進課 | 市内全小学校での小学生向けモビリティ・マネジメントの普及展開について | |
| 川村竜之介 | 筑波大学大学院システム情報工学研究科 | 公共交通車内における協力行動と社会規範に関する国際比較 | |
| 山本克己 | 筑波大学システム情報工学研究科 リスク工学専攻 | 筑波大学における継続的モビリティ・マネジメント施策 | ○ |
| 立川太一 | 中央復建コンサルタンツ株式会社 | 国道1号大津市・山科区間の渋滞緩和を目的としたモビリティ・マネジメントの継続的な取り組み | ○ |
| 村尾俊昭 | 新潟市都市交通政策課 | 高齢者のおでかけ支援ーシニア半わり社会実験の実施ー | |

(○ ツール展示予定のご発表)

JCOMM 特別企画

「地方民間鉄道がんばろう！～地方鉄道におけるMMの役割と今後の展望」

1. 企画主旨

地方の民間鉄道は地方中核都市や山間部を走り、地方住民の“暮らしの足”となっている。しかしながら、地方の民間鉄道の沿線では、人口の過疎化や自動車交通の発達などから、鉄道の輸送人員の減少に歯止めがかからず、経営は苦しいものとなっている。その結果、残念ながら廃線に至った路線もある。

一方で、創意工夫で逆境に立ち向かっている地方の民間鉄道会社もある。イメージキャラクターの活用による話題創出、沿線住民との多様かつ積極的な連携等により、逆境に果敢に挑戦し、地方の鉄道を活気づけ、そして地域全体の活力へとつなげている。そこにはMMの基本とするところである「コミュニケーション」の存在が大きい。その上で、地域の足としての役割を果たすため、様々な経営努力が展開されている。

本企画セッションでは、これまでに地方鉄道の活性化に果敢に挑戦してきた民間鉄道会社の皆さんと一緒に議論し、地方民間鉄道におけるMMの役割、またそれらを踏まえた地方民間鉄道の今後の展望を探る。

2. パネルディスカッション

| | | |
|-----------|-----------|-----------------|
| コーディネーター： | 中川 大 | 京都大学大学院教授 |
| パネリスト： | 上田電鉄株式会社 | 代表取締役社長 角田 朗一 氏 |
| | 江ノ島電鉄株式会社 | 代表取締役社長 深谷 研二 氏 |
| | 三陸鉄道株式会社 | 代表取締役社長 望月 正彦 氏 |
| | 和歌山電鐵株式会社 | 代表取締役専務 磯野 省吾 氏 |

(社名五十音順)